

# UC-Drawツールズ Temporarybridge (仮設構台)

Operation Guidance 操作ガイダンス





# 本書のご使用にあたって

本操作ガイダンスは、主に初めて本製品を利用する方を対象に操作の流れに沿って、操作、入力、処理方法を説明したものです。

# ご利用にあたって

で使用製品のバージョンは、製品「ヘルプ」のバージョン情報よりで確認下さい。 本書は、表紙に掲載のバージョンにより、で説明しています。 最新バージョンでない場合もでざいます。で了承下さい。

本製品及び本書ので使用による貴社の金銭上の損害及び逸失利益または、第三者からのいかなる請求についても、弊社は、その責任を一切負いませんので、あらかじめご了承下さい。 製品のご使用については、「使用権許諾契約書」が設けられています。

※掲載されている各社名、各社製品名は一般に各社の登録商標または商標です。

©2012 FORUM8 Co., Ltd. All rights reserved.

# 目次

5	第1章 製品概要
5	1 プログラム概要
5	1-1 機能と特長
6	1-2 仮設構台の種類と部材
9	2 フローチャート
10	第2章 操作ガイダンス
10	1 基本情報入力
13	2 図面生成条件
13	2-1 乗入れ構台
16	2-2 路面覆工
17	2-3 表記条件
18	2-4 その他
19	3 図面作成条件
19	4 使用部材入力
20	5 形状情報入力
20	5-1 構台
22	5-2 架橋
25	5-3 基礎
25	6 数量計算条件の指定
25	6-1 設計条件表
26	6-2 数量計算
28	7 図面生成
29	7-1 図面表示
30	7-2 図面編集
35	7-3 図面出力
37	7-4 図面印刷
38	8 ファイル保存
39	第3章 Q&A
	713 — QQ/(
39	1 UC-Drawツールズ「共通」

# 第1章 製品概要

# 1 プログラム概要

# 1-1 機能と特長

「UC-Drawツールズ(Temporary bridge)」は、仮設構台(仮設構造物である「乗入れ構台(仮桟橋)」および「路面覆工」)の図面を一括自動生成するためのプログラムで、以下の特徴を備えています。

#### ◆スピーディな図面作成

仮設構台の寸法や使用する部材などの情報を入力することにより内部的に作図データを一括生成するため、短時間に目的とする仮設構台の図面が得られます。

#### ◆数量計算作業の解消

入力された形状情報や部材情報を基に数量計算を行い、主要部材数量表を自動生成しますので、部材数量の計算作業を解消します。

#### ◆柱状図や設計条件表の作図

仮設構台の作図(断面図・正面図・側面図・平面図・主要部材数量表)の他に、柱状図や設計条件表の作図も行えます。

#### ◆細かな作図書式に対応

作図条件で寸法線や引出線・文字・表などの作図書式の細かな設定が行えます。各図形はその設定に基づいて生成されますのできめ細かな図形生成が行えます。

#### ◆各種基準類に沿った図面作成

以下の基準類に準拠した図面作成が行えます。

- ・CAD製図基準(案) 国土交通省 平成16年6月版
- ・CADによる図面作成要領(案) 日本道路公団 平成13年10月版

#### ◆生成図面の確認・編集・印刷

生成した図面の確認表示や図形・寸法線・引出線などの編集(位置調整)、プリンタ・プロッタへの印刷が行えます。

#### ◆様々な形式の図面ファイル出力に対応

弊社の製品である「UC-Draw」のオリジナル形式のファイル(PSX)の他に、「SXF」・「DXF」・「DWG」・「JWW」・「JWC」形式のファイル出力が行えます。

# 1-2 仮設構台の種類と部材

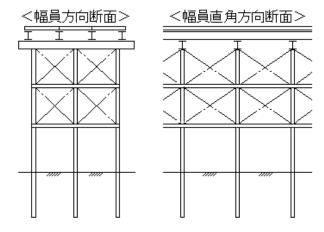
本プログラムでは、工事用車両の通行や作業構台として使用される『乗入れ構台(仮桟橋)』形式と、開削工事を行う場合に路上交通を妨げずに仮の路面として使用される『路面覆工』形式の仮設構台の作図が行えます。

#### ◆乗入れ構台(仮桟橋)

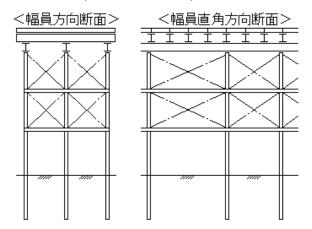
①形状

以下の2つの形状の作図が行えます。

#### <構台タイプ | (幅員と主桁が「直交」)>



# <構台タイプⅡ(幅員と主桁が「平行」)>



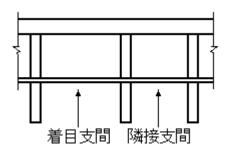
#### ②部材

以下の部材の作図が行えます。

- •覆工板
- ・主桁(根太・覆工受桁)・・・H形鋼
- ・桁受け(大引・はり)・・・・・H形鋼 or 片溝形鋼
- ・支柱杭(支柱・くい)・・・・・・H形鋼
- ・水平継材・・・・・・・・・片溝形鋼
- ・垂直ブレース・・・・・・・等辺山形鋼
- ・水平ブレース・・・・・・・等辺山形鋼
- ・横継材・・・・・・・・・・・・・・・片溝形鋼 or 等辺山形鋼
- ・コンクリート基礎

# 【メモ】

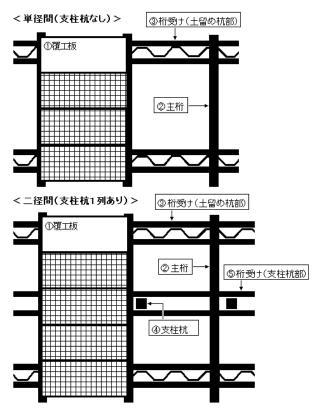
※乗入れ構台(仮桟橋)で作図可能な支間数は、「着目支間」と「隣接支間」の『2支間』までです。



# 路面覆工

①形状

以下の2つのタイプの作図が行えます。

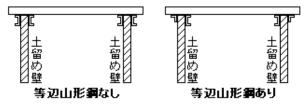


#### ②部材

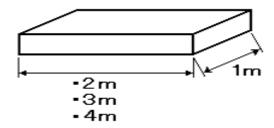
以下の部材の作図が行えます。

- ・土留め壁・・・・・・・・・・・・親杭横矢板壁 or 鋼矢板壁
- •覆工板
- ・主桁(根太・覆工受桁)・・・H形鋼
- ・桁受け(大引・はり)・・・・・ H形鋼 or 片溝形鋼(等辺山形鋼)
- ・支柱杭(支柱・くい)・・・・・・H形鋼
- ·水平継材 · · · · · · · · · · · · 片溝形鋼
- ・垂直ブレース・・・・・・・・等辺山形鋼
- ・横継材・・・・・・・・・・・・・・・片溝形鋼 or 等辺山形鋼
- ・コンクリート基礎

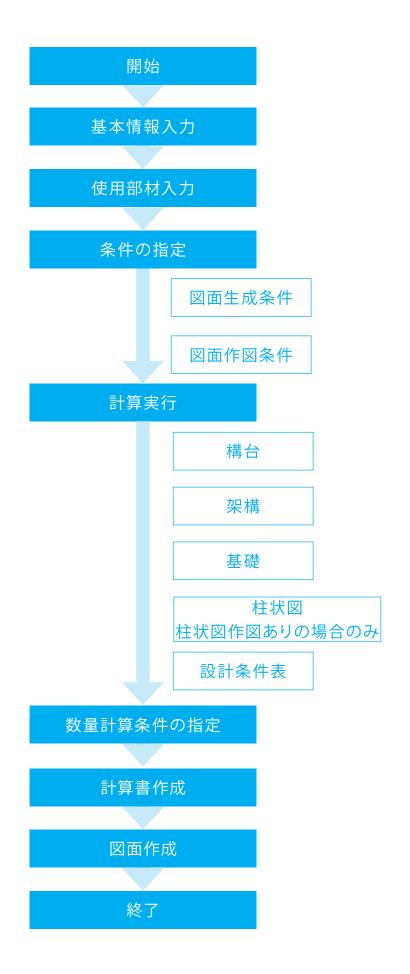
- ※土留め壁については、以下の部材を作図します。
- ・親杭横矢板壁・・・親杭、土留板(木材板・軽量鋼矢板)
- ・鋼矢板壁・・・・・・鋼矢板
- ※路面覆工で土留め壁部の桁受けに「片溝形鋼」を使用する場合、土留め壁の外側に「等辺山形鋼」を配置するかしないかの指定が行えます。



※覆工板を作図する際の「長さ」については、「2m」・「3m」・「 $\pm m$ (根太・覆工受桁)の間隔」から指定できます。なお、覆工板の「幅」・「高さ」については、「幅=1m」・「高さ= $20\,cm$ 」固定で作図します。



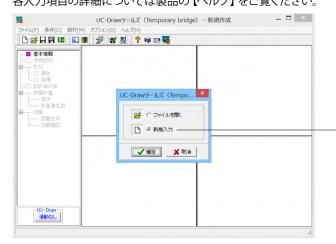
# 2 フローチャート



# 第2章 操作ガイダンス

# 1 基本情報入力

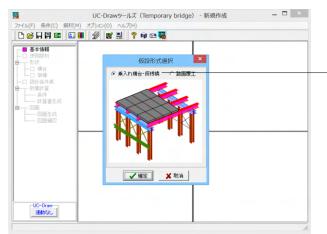
サンプルデータ「Sample1(構台+コンクリート基礎).F7K」を例題として作成します。 各入力項目の詳細については製品の【ヘルプ】をご覧ください。



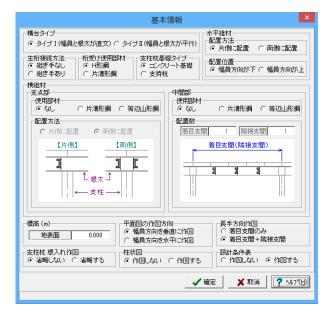
プログラムを起動します。

「新規入力」を選択し、「確定」ボタンを押してください。

※すでに保存されているデータファイルを読み込む場合は、「ファイルを開く」を選択し、「確定」ボタンを押してください。



「仮設形式選択」画面が表示されますので、「乗入れ構台・仮 桟橋」にチェックを入れ、「確定」ボタンを押してください。



「基本情報」画面が表示されますので、下記画面または表の「入力値」 に従って設定してください。

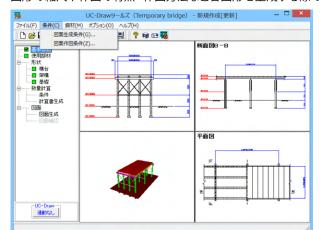
入力が終わりましたら、「確定」ボタンを押してください。

項目	入直値		説明
構台タイプ			作図する仮設構台の形状を指定します
主桁接続方法	継ぎ手なし		主桁(根太・覆工受桁)の接続方法(継ぎ手を設けるか設けないか)を指定
			します。
			」(↑・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・
			→ ↓
			************************************
			  ※継ぎ手長は、ツリービューの「形状」→「構台(乗入れ構台)」の「主桁
			継ぎ手長」で指定してください。
桁受け使用部材	H形鋼		桁受け(大引・はり)に使用する部材の種類(「H形鋼」を使用するか「片
			溝形鋼」を使用するか)を指定します。
			  ※「片溝形鋼」の場合、支柱杭(支柱・くい)の両側に片溝形鋼を配置し
			ます。
			主桁
			#5 750 L
			桁受け→ <b>』</b> 【◆一桁受け
			「形状」→「構台(乗入れ構台)」の「支柱杭突出長」で指定してくださ
	  コンクリート其7		い。  支柱杭(支柱・くい)の下端にコンクリート基礎を設けるか設けないかを
文化が全成グーク		-AC	指定します。
			<del>                                    </del>
			□ □ □ □ <del>□ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □</del>
			※コンクリート基礎の寸法は、ツリービューの「形状」→「基礎」で指定
	配置方法	配置位置	してください。  ①配置方法
八十五年初		能量位置 幅員方向が下	1
	/ KNCELE		水平継材の配置方法(「支柱杭(支柱・くい)」の片側に配置するか両側に
			配置するか)を指定します。
			□ 支 □ 支 □ ★ □ ★ □ ★ 平維材
			<片側> <両側>
			②配置位置 
			「幅員直角方向の水平継材」を配置する際の「幅員方向の水平継材」と
			の位置関係(「幅員方向が下」または「幅員方向が上」)を指定をします。
			■ 幅員直角方向 ▼ 大平維材 支柱杭
			支柱杭   本一幅員直角方向 水平維材
			TIME SOLD DV T 1 37 SIMPLOTITION - 1212

横継材	なし	「支点部(支柱杭部分)」および「中間部(支柱杭と支柱杭の間)」に配置
		する横継材の情報を指定します。
		・支点部・・・横継材の配置有無、配置する際の部材の種類および配
		置方法
		・中間部・・・横継材の配置有無、配置する際の部材の種類および配
		置数
		支点部横継材 主桁 支点部横継材
		支   支
		指定してください。
		す。
		ゝ 。  ※構台タイプ  (幅員と主桁が平行)の場合、中間部横継材の指定は行え
		ません。
 標高	0.000	地表面の標高(単位:m)を指定します。
		GL±?????
		<del>                                     </del>
正面図の作図方向	  幅員方向を垂直に作図	  平面図を作図する際の向きを指定します。
	開発力的を単位に下凸	
		図面   図面   図面   図面
		<幅員方向を垂直> <幅員方向を水平>
<b>ラスナウル</b> 図		
長手方向作図	着目支間+隣接支間 	「幅員直角方向断面図」および「平面図」に『隣接支間』を作図するか
		しないかを指定します。
		<着目支間のみ> <着目支間+隣接支間>
支柱杭	省略しない	支柱杭(支柱・くい)の根入れ部分を省略して作図するかしないかを指定
根入れ作図		L\$\tau_{\text{c}}
		M+T
		<del>                                    </del>
		〈省略しない〉   〈省略する〉
		※根入れ部の省略作図は、根入れ長が「3m」より長い場合に行いま
		<b>ं</b> के
		※省略線のサイズは、「条件(C)」→「図面作図条件(Z)」→「線属性」の
12.15		「省略線」で設定してください。
柱状図 小手	作図しない  佐図オス	柱状図を作図するかしないかを指定します。
設計条件表	作図する	設計条件表を作図するかしないかを指定します。

# 2 図面生成条件

図形の縮尺や作図の有無・作図方法など各図形を生成する際の条件を設定します。



メインメニューの「条件」ー「図面生成条件」を選択します。



「図面生成条件」画面が表示されます。 各ボタンを押すと入力画面が表示されますので、次ページ以降 を参照し、各図形の生成条件を設定してください。

※図面生成の際にエラーコード「0xc0150002」が表示され、図面が生成できない。

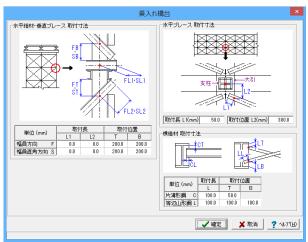
(Q1-2-9参照)

https://www.forum8.co.jp/faq/win/tools-tempbrqa.htm#q1-2-9

# 2-1 乗入れ構台

乗入れ構台の各部材の取り付け寸法の指定を行います。

※本データでは変更はありません。



「乗入れ構台」ボタンを押して、下記画面に下記画面または表の「入力値」に従って設定してください。 入力が終わりましたら、「確定」ボタンを押してください。

項目	入力値					
水平継材・垂直ブレース						
	₩(± (mm)	単位 (mm)		長	取付	位置
	₩ ₩ ₩ ₩ ₩ ₩ ₩ ₩ ₩ ₩ ₩ ₩ ₩ ₩ ₩ ₩ ₩ ₩ ₩			L2	Т	В
	幅負方向	F	0.0	0.0	200.0	200.0
	幅員直角方向	S	0.0	0.0	200.0	200.0

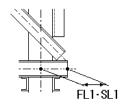
#### 説明

水平継材と垂直ブレースの取付長と取付位置を指定します。

#### ①水平継材の取付長

支柱杭中央と水平継材中央の交点から水平継材先端 までの寸法(単位:mm)を指定します。

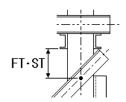
- ・FL1・・・幅員方向の取付長
- ・SL1・・・幅員直角方向の取付長



#### ③垂直ブレースの上側の取付位置

水平継材下端から支柱杭中央と垂直ブレース中央の交点 までの寸法(単位:mm)を指定します。

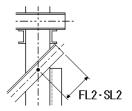
- ・FT・・・幅員方向の取付位置
- ・ST・・・幅員直角方向の取付位置



#### ②垂直ブレースの取付長

支柱杭中央と垂直ブレース中央の交点から垂直ブレース端までの寸法(単位:mm)を指定します。

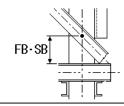
- ・FL2・・・幅員方向の取付長
- ・SL2・・・幅員直角方向の取付長



#### ④垂直ブレースの下側の取付位置

水平継材上端から支柱杭中央と垂直ブレース中央の交点までの寸法(単位:mm)を指定します。

- ・FB・・・幅員方向の取付位置
- SB・・・幅員直角方向の取付位置



#### 【メモ】

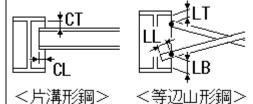
※最下段の場合は、地表面からの寸法(単位:mm)を指定してください。

項目	入力値		説明
水平ブレース	取付長(L1)	取付位置(L 2)	水平ブレースの取付長と取付位置を指定します。
	50.0	300.0	支柱杭 桁受け
			①取付長(L1) 水平ブレース中央と桁受け(大引・はり)の片端の交点と水平ブレース 先端までの寸法(単位:mm)で指定します。 ②取付位置(L2) 支柱杭中央から水平ブレース中央と桁受け(大引・はり)の片端の交点までの寸法(単位:mm)で指定します。

項目	入力値						
横継材	単位 (mm)	取付長	取付	位置			
	<b>半</b> 位 (mm)	L	Т	В			
	片溝形鋼 C	100.0	50.0				
	等辺山形綱 L	100.0	100.0	100.0			

#### 説明

横継材の取付長と取付位置を指定します。



# ①片溝形鋼の取付長(CL)

「主桁(根太・覆工受桁)のフランジ先端(スチフナー先端)」から「横継材先端」までの寸法(単位:mm)を指定します。

#### ②片溝形鋼の取付位置(CT)

「主桁(根太・覆工受桁)の上側フランジ下端」から「横継材上端」までの寸法(単位:mm)を指定します。

#### ③等辺山形鋼の取付長(LL)

「主桁(根太・覆工受桁)のフランジ先端(スチフナー先端)と横継材中央の交点」から「横継材先端」までの寸法(単位:mm)を指定します。

#### ④等辺山形鋼の上側の取付位置(LT)

「主桁(根太・覆工受桁)の上側フランジ下端」から「フランジ先端(スチフナー先端)と横継材中央の交点」 までの寸法(単位:mm)を指定します。

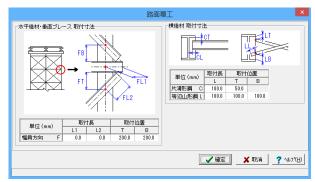
#### ⑤等辺山形鋼の下側の取付位置(LB)

「主桁(根太・覆工受桁)の下側フランジ上端」から「フランジ先端(スチフナー先端)と横継材中央の交点」までの寸法(単位:mm)を指定します。

# 2-2 路面覆工

路面覆工の各部材の取り付け寸法の指定を行います。

※本データでは変更はありません。



「路面覆工」ボタンを押して、下記画面に下記画面または表の 「入力値」に従って設定してください。 入力が終わりましたら、「確定」 ボタンを押してください。

項目	入力値						
水平継材・垂直ブレース	単位(mm) 幅員方向 F		取付長取付位置				
			L1	L2	Т	В	
			0.0	0.0	200.0	200.0	
							i

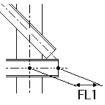
#### 説明

水平継材と垂直ブレースの取付長と取付位置を指定します。

#### ①水平継材の取付長

支柱杭中央と水平継材中央の交点から水平継材先端 までの寸法(単位:mm)を指定します。

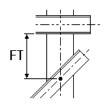
・FL1・・・幅員方向の取付長



### ③垂直ブレースの上側の取付位置

水平継材下端から支柱杭中央と垂直ブレース中央の交点 までの寸法(単位:mm)を指定します。

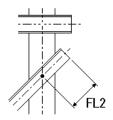
・FT・・・幅員方向の取付位置



#### ②垂直ブレースの取付長

支柱杭中央と垂直ブレース中央の交点から垂直ブレース端までの寸法(単位:mm)を指定します。

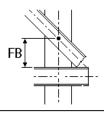
・FL2・・・幅員方向の取付長



### ④垂直ブレースの下側の取付位置

水平継材上端から支柱杭中央と垂直ブレース中央の交点までの寸法(単位:mm)を指定します。

・FB・・・幅員方向の取付位置



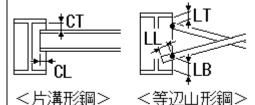
### 【メモ】

※最下段の場合は、地表面からの寸法(単位:mm)を指定してください。

項目 入力値 横継材 取付長 取付位置 単位 (mm) Т В L 片溝形細 100.0 50.0 100.0 100.0 100.0 等辺山形綱し

#### 説明

横継材の取付長と取付位置を指定します。



①片溝形鋼の取付長(CL)

「主桁(根太・覆工受桁)のフランジ先端(スチフナー先端)」から「横継材先端」までの寸法(単位:mm)を指定します。

②片溝形鋼の取付位置(CT)

「主桁(根太・覆工受桁)の上側フランジ下端」から「横継材上端」までの寸法(単位:mm)を指定します。

③等辺山形鋼の取付長(LL)

「主桁(根太・覆工受桁)のフランジ先端(スチフナー先端)と横継材中央の交点」から「横継材先端」までの寸法(単位:mm)を指定します。

④等辺山形鋼の上側の取付位置(LT)

「主桁(根太・覆工受桁)の上側フランジ下端」から「フランジ先端(スチフナー先端)と横継材中央の交点」までの寸法(単位:mm)を指定します。

⑤等辺山形鋼の下側の取付位置(LB)

「主桁(根太・覆工受桁)の下側フランジ上端」から「フランジ先端(スチフナー先端)と横継材中央の交点」までの寸法(単位:mm)を指定します。

# 2-3 表記条件

図面表記に関する以下の条件の指定を行います。



「表記条件」ボタンを押して、図または表の「入力値」に従って設定してください。

入力が終わりましたら、「確定」ボタンを押してください。

各ボタンを押すことでデフォルト値を「作図上呼称」に設定することができます。

項目	入力値		説明
図面表題	仮設図		図面に表記する「図面表題(図面タイトル)」を指定します。
標高表記単位	~m		断面図・正面図・側面図に作図する標高の表記単位を指定します。
標高ゼロ表記	GL±0.000		標高ゼロを表記する際、「土」を付けて表記するかしないかを指定します。
			※「GL±0.000」を指定した場合、ゼロ以外の深度で表記される「+、-」には
			全角文字を使用します。
			※「GL 0.000」を指定した場合、ゼロ以外の深度で表記される「+、-」には半角
			文字を使用します。
矢視表記記号	A,B		平面図に作図する矢視の表記方法を指定します。
			※「A,B」の場合は「アルファベット」で、「1,2」の場合は「数字」で表記しま
			す。
縮尺	断面図	100	「断面図(正面図・側面図)」、「平面図」および「アンカーボルト取付詳細図」
	平面図	100	の縮尺を指定します。
	アンカーボルト取付	30	- 1 m
	詳細図		
作図時の部材	主桁	受桁	「主要部材数量表」および「設計条件表」に表記する部材の呼称(呼び名)を
呼称	桁受け	はり	指定します。「主桁」・「桁受け」・「支柱杭」・「土留め壁」 それぞれで表記する
	支柱杭	くい	文字列を入力してください。
	土留め壁	土留め壁	文子がでハノリンと、7とことで

# 2-4 その他



#### 図面生成時のレイアウト確認・修正

図面生成段階で図面レイアウトの確認・修正を行うか行わないかの指定を行います。「する」と指定された場合、図面生成実行中に「レイアウト確認・修正」用の画面が表示されますので、必要に応じ図形の配置図面の変更や作図位置の変更などの図面レイアウトの調整を行ってください。

※図面生成段階での図面レイアウトの決定方法については、 「図面レイアウト」を参照してください。

①本データでは、「しない」と設定します。

#### 「CAD製図基準ファイル名」ボタン

生成する各図面に付加する「CAD製図基準(案)の命名規則」に従ったファイル名称を設定します。「CAD製図基準ファイル名」ボタンをクリックして諸条件の確認・修正を行ってください。

※このファイル名称は、図面確認で図面を「SXF」・「DXF」・「DWG」・「JWW」・「JWC」ファイルに出力する際のファイル名称として使用されます。

- ※生成する図面が複数の場合、ここで指定された「図面番号」を最初の図面番号とし、プラス1する方法で順に自動付けします。
- ※「図面種類」は、変更できません。
- ※上図の各設定項目の詳細については、「CAD製図基準 (案) 平成15年7月版」を参照してください。



すべての入力が終わりましたら、「閉じる」ボタンを押してください。

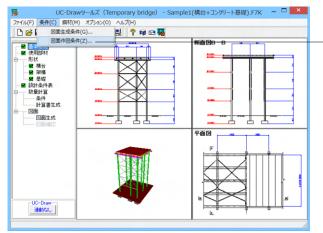
※「図面生成」から「レイアウト確認・修正」ダイアログが表示されない。

(Q1-3-3参照)

https://www.forum8.co.jp/faq/win/tools-tempbrqa.htm#q1-3-3

# 3 図面作成条件

図面生成時に使用する基準値や書式などの「作図条件」の確認・修正を行います。



- メインメニュー 「条件」 - 「図面作図条件」 を選択します。



「作図条件」画面が表示されます。 各基準、属性を設定し、「確定」ボタンを押してください。 ※本データでは変更はありません。

※作図条件の情報は前回使用した値を保持していますので、前回と異なる条件で作図させる場合以外には変更の必要はありません。

変更する場合は、各ボタンを押して表示される画面で設定を 行ってください。入力項目の説明につきましては、各画面上の 「ヘルプ」ボタンを押して表示されるヘルプ情報をご参照くだ さい。

※本プログラムでは、国土交通省仕様、道路公団仕様の作図 仕様データを用意しています。

「作図条件データ選択」の「▼」をクリックし、選択してください。

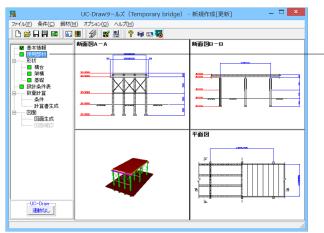
※CAD製図基準(案)やCADによる図面作成要領(案)に準拠した図面を作成する場合は、「レイヤ属性」で指定してください。

※引き出し線と鉄筋加工の円の大きさを変更したい。 (Q1-1-2参照)

https://www.forum8.co.jp/faq/win/tools-tempbrqa.htm#q1-1-2

# 4 使用部材入力

ここでは「乗入れ構台」形式の各部材で使用する鋼材の指定を行います。



メイン画面左側 (ツリービュー) の「使用部材」をクリックしてください。



「使用部材」入力画面が表示されます。下記画面に従って入力してください。

入力が終わりましたら、「確定」ボタンを押してください。

#### ◆鋼材の指定

「主桁」・「桁受け」・「支柱杭」・「水平継材」・「垂直ブレース」・「水平ブレース」・「横継材(支点部と中間部)」に使用する鋼材を指定します。各部材右横の鋼材名称をマウスで選択すると、選択可能な鋼材名称リストがプルダウンで表示されますのでその中から指定してください。

#### ◆覆工板名称の指定

断面図や平面図、主要部材数量表に表記する覆工板の名称を指定します。

※実際に使用する覆工板サイズが2種類より多い場合、覆工板の名称には『覆工板』を使用します。

#### ◆「登録データ参照」ボタン

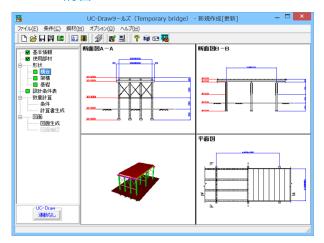
「鋼材(M)」→「鋼材登録(R)」で登録されている各部材の鋼材情報を表示します。本ボタンを押下すると「使用部材選択」 画面が表示されますので、画面上部の部材名称を選択してください。画面下部に現在登録されている鋼材情報が一覧表示 されます。なお、一覧表示された鋼材情報の鋼材を選択(反転表示)することで鋼材の指定が行えます。

※「使用部材選択」画面では、鋼材情報の追加・削除・変更は行えません(鋼材情報の追加・削除・変更は、「鋼材(M)」→ 「鋼材登録(R)」にて行ってください)。

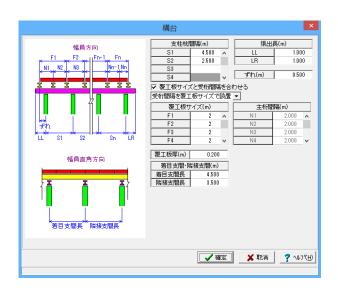
# 5 形状情報入力

ここでは作図する仮設構台の形状に関するデータを入力します。

# 5-1 構台

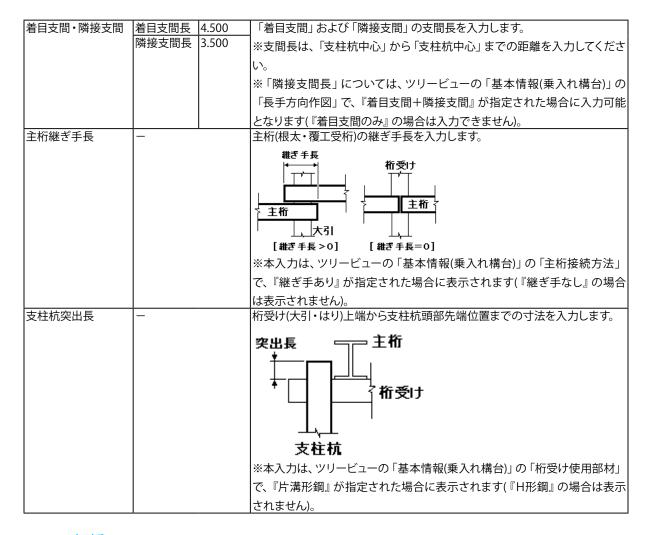


「乗入れ構台」 形式の構台情報を入力します。 メイン画面左側の「形状」 - 「構台」 をクリックしてください。



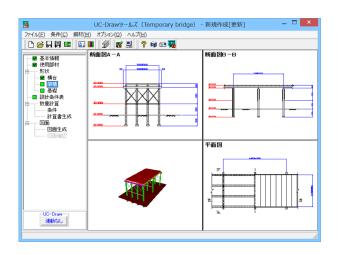
「構台」入力画面が表示されます。表に従って入力してください。 入力が終わりましたら、「確定」ボタンを押してください。

項目	入力値		説明
支柱杭間隔	S1	4.500	幅員方向の支柱杭(支柱・くい)の配置情報(支柱と支柱の間隔)を入力しま
	S2	2.500	す。
			※支柱杭をN本配置する場合、「N-1」分の間隔を入力してください。
張出長	LL	1.000	<構台タイプ I (幅員と主桁が直交)の場合>
			桁受け(大引・はり)の両端位置を入力します。
			・LL・・・「最左端の支柱杭中心」から「桁受けの左側先端位置」までの距
			離
	LR	1.000	・LR・・・「最右端の支柱杭中心」から「桁受けの右側先端位置」までの距
			離
			<構台タイプ    (幅員と主桁が平行)の場合>
			主桁(根太・覆工受桁)の両端位置を入力します。
			・LL・・・「最左端の支柱杭中心」から「主桁の左側先端位置」までの距離
			  ・LR・・・「最右端の支柱杭中心」から「主桁の右側先端位置」 までの距離
ずれ	0.500		主桁(根太・覆工受桁)の配置開始位置を入力します。
			<構台タイプ I (幅員と主桁が直交)の場合>
			「幅員方向の最左端の支柱杭中心」から「最左端の主桁中心」までの距離
			を入力してください。
			<構台タイプⅡ(幅員と主桁が平行)の場合>
			「長手方向の最左端の支柱杭中心」から「最左端の主桁中心」までの距離を
			入力してください。
覆工板サイズ	F1∼F4	2	各覆工板の「長さ」を入力します。左側の覆工板から順番に入力してくださ
			U`₀
			※入力可能なサイズは、「2m」・「3m」・「4m」のみです。
覆工板厚	0.200		覆工板の厚さを入力します。
主桁間隔	_		主桁(根太・覆工受桁)の配置情報(主桁と主桁の間隔)を入力します。
	イールカナフ		※主桁をN本配置する場合、「N-1」分の間隔を入力してください。
「覆工板サイズと受	ナエツク 9 る 		本チェックボックスがチェックされた場合、
桁間隔を合わせる」			「覆工板サイズを受桁間隔で設置」を選択
チェックボックス			・・・「覆工板サイズ」を使用せず、「主桁間隔」で主桁を作図します。
			「受桁間隔を覆工板サイズで設置」を選択
			・・・「主桁間隔」を使用せず、「覆工板サイズ」で主桁を作図します。

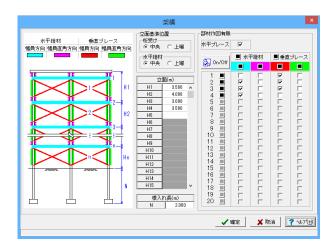


# 5-2 架橋

「乗入れ構台」形式の架構情報を入力します。



メイン画面左側の「形状」 – 「架構」をクリックしてください。



「架構」入力画面が表示されます。下記画面に従って入力して ください。

入力が終わりましたら、「確定」ボタンを押してください。

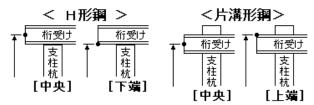
#### ◆立面基準位置

立面(「水平継材の配置位置」および「地表面の位置」)の情報を入力する際の基準位置を指定します。

#### ①桁受け

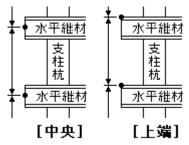
桁受け(大引・はり)の基準位置を指定します。

- <桁受けの部材が「H形鋼」の場合>
  - ・「中央」または「下端」から選択してください。
- <桁受けの部材が「片溝形鋼」の場合>
  - ・「中央」または「上端」から選択してください。



#### ②水平継材

水平継材の基準位置を指定します。「中央」または「上端」から選択してください。



※断面図の寸法線・引出線は、本項目で指定された位置で作図します。

#### ◆立面(単位:m)

立面(「水平継材の配置位置」および「地表面の位置」)の情報を入力します。

<入力が「1行」の場合>

・1行目: 桁受け~地表面の距離

<入力が「2行」の場合>

・1行目: 桁受け~水平継材

・2行目:水平継材~地表面の距離

<入力が「3行以上(N行)」の場合>

・1行目: 桁受け~水平継材

·2~「N-1」行目:水平継材~水平継材

・N行目:水平継材~地表面の距離

※一番上部の水平継材は、桁受けの直下に配置します。

#### ◆根入れ長(単位:m)

支柱杭(支柱・くい)の根入れ長を入力します。

#### ◆部材作図有無

水平ブレース、水平継材、垂直ブレースの配置有無を指定します。

①水平ブレース

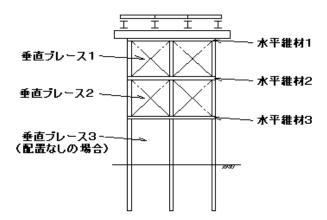
水平ブレースの配置有無を指定します。配置する場合はチェックボックスをチェックしてください。

②水平継材・垂直ブレース

水平継材と垂直ブレースの配置有無を「幅員方向」および「幅員直角方向」それぞれで指定します。

※チェックボックスがチェックされている部分に部材を配置します。

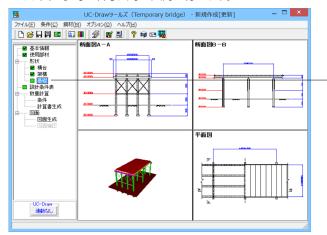
※以下の各ボタンを押すことで配置有無を一括して切り換えることができます。



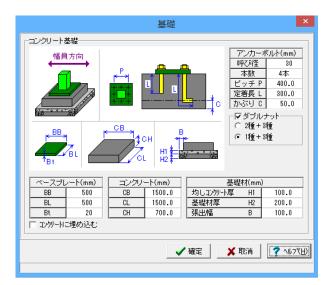
- On/Offボタン
  - ・・・全ての段の全水平継材・全垂直ブレースの配置有無
- ・「各段:1~20」ボタン
- ・・・各段の全水平継材・全垂直ブレースの配置有無
- 「水平継材」ボタン
- ・・・全ての段の全水平継材の配置有無
- ・「水平継材の幅員方向」ボタン
  - ・・・全て段の幅員方向の水平継材の配置有無
- ・「水平継材の幅員直角方向」ボタン
- ・・・全て段の幅員直角方向の水平継材の配置有無
- ・「垂直ブレース」 ボタン
- ・・・全ての段の垂直ブレースの配置有無
- ・「垂直ブレースの幅員方向」ボタン
- ・・・全て段の幅員方向の垂直ブレースの配置有無
- ・「垂直ブレースの幅員直角方向」ボタン
  - ・・・全て段の幅員方向の垂直ブレースの配置有無

# 5-3 基礎

ガイド図を参考に各寸法等の入力を行います。



・メイン画面左側の「形状」-「基礎」をクリックしてください。



「基礎」入力画面が表示されます。下記に従って入力してください。

コンクリート基礎(単位:mm) ベースプレート、コンクリート、基礎材、アンカーボルトの各寸 法を指定します。

コンクリート(mm)					
CB	1500.0				
CL	1500.0				
CH	700.0				

※本画面は、ツリービューの「基本情報(乗入れ構台)・基本情報(路面覆工)」の「支柱杭基礎タイプ」で、『コンクリート基礎』が指定された場合に表示されます(『支持杭』の場合は表示されません)。

※アンカーボルトの寸法Cは、コンクリート下面からのかぶりです。 定着長Lが長い場合、かぶり位置で曲げ作図します。

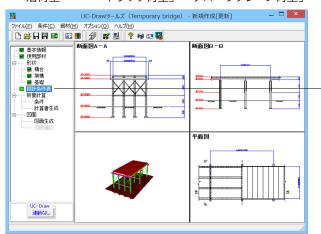
入力が終わりましたら、「確定」ボタンを押してください。

# 6 数量計算条件の指定

# 6-1 設計条件表

設計条件表に作図する以下の項目を指定します。

- •適用基準
- •支柱杭施工方法
- ・活荷重・・・・・「トラック荷重」・「クローラクレーン荷重」・「トラッククレーン荷重」が指定可能



メイン画面左側の「設計条件表」をクリックしてください。



「設計条件表」入力画面が表示されます。下記画面に従って入力してください。

入力が終わりましたら、「確定」ボタンを押してください。

※「形状寸法」については、以下の内容を表記します。

#### <乗入れ構台の場合>

- ・「支間」・・・ツリービューの「形状」→「構台(乗入れ構台)」の『着目支間長』
- ・「幅員」・・・ツリービューの「形状」→「構台(乗入れ構台)」の以下の内容
  - ①構台タイプ I (幅員と主桁が直交)=『覆工板サイズの合計値』
  - ②構台タイプ II (幅員と主桁が平行)=『支柱(くい)間隔の合計値+張出長(LL+LR)』
- ・「高さ」・・・ツリービューの「形状」→「架構(乗入れ構台)」の『立面』の合計値

#### <路面覆工の場合>

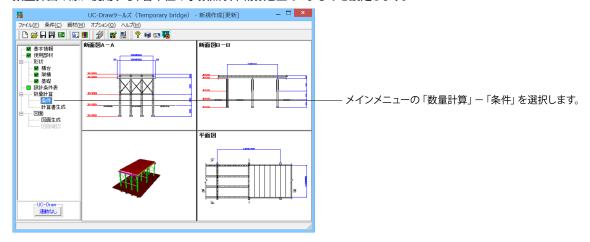
- ・「支間」・・・ツリービューの「形状」→「土留め壁・構台(路面覆工)」の『着目支間長 + 隣接支間』
- ・「幅員」・・・ツリービューの「形状」→「土留め壁・構台(路面覆工)」の『覆工板サイズの合計値』
- ・「高さ」・・・ツリービューの「形状」→「架構(路面覆工)」の以下の内容
  - ①単径間=『壁高』
  - ②二径間=『立面』の合計値

# 6-2 数量計算

ここでは数量算出時に使用する書式の設定や数量計算書の生成を行います。

#### 条件

数量算出の際に使用する、各単位の小数点以下桁数と止め・まるめを設定します。



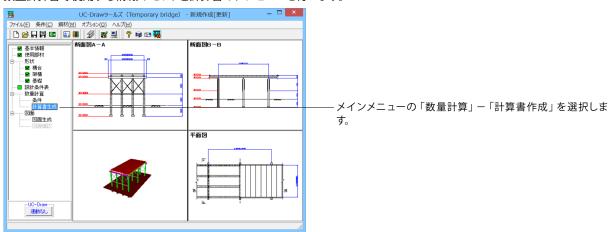


数量計算の書式条件を設定し、「確定」ボタンを押してください。

※本データでは変更はありません。

#### 計算書生成

数量計算書で使用する情報のセットと計算書のプレビューを行います。





「計算書作成」入力画面が表示されます。「計算書」プレビュー ボタンを押すことでプレビュー画面を確認できます。



確認後、「閉じる」ボタンを押してください。

#### ◆総括表の表記文字列(材質など)

総括表に表記する文字列を入力してください。 材質に限りません。

- ※文字列を表記しない場合は、空白にしてください。
- ※使用しない部材の情報は、入力する必要はありません。

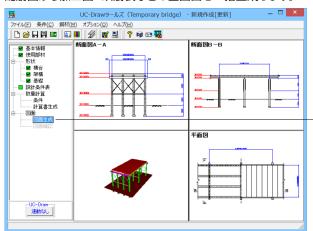
#### ◆「計算書プレビュー」ボタン

「プレビュー」ボタンを押下することにより数量計算書の生成を行います。

- ※数量計算書には、使用する部材のみ表記します。
- ※数量計算書の操作方法に関しては、「F8 出力編集ツール」のヘルプを参照してください。

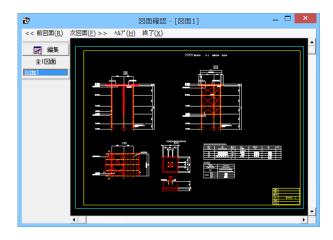
# 7 図面生成

配筋図から加工図・鉄筋表などの全図面を一括生成します。



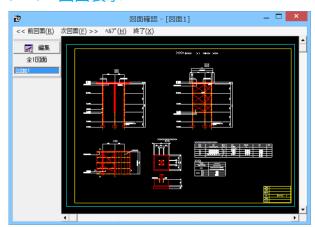
メイン画面左側の「図面」 - 「図面生成」をクリックしてください。

※メインメニュー「条件」-「図面生成条件」の「図面生成時のレイアウト確認・修正」が「する」と設定されている状態で図面生成を行うと、生成実行中に「レイアウト確認・修正」用の画面が表示されますので、必要に応じ図形の配置図面の変更や作図位置の変更などの図面レイアウトの調整を行ってください。



図面生成が終了すると、「図面確認」 画面が表示されます。 ここで図面の確認、編集、印刷等が行えます。

# 7-1 図面表示



「図面確認」画面は「表示モード」で起動し、「選択ウィンドウ」と「図面ウィンドウ(表示モード用)」が表示されます。 図面確認を終了する場合は、メニュー「終了」をクリックしてください。

#### ■図面の切替

図面が複数ある場合、「選択ウィンドウ」で表示したい図面をクリックするか、または「図面確認」画面メニューの「<<前図面(R)」、「次図面(F)>>」をクリックすることで、各図面を表示することができます。

#### ■図面の表示

#### <拡大表示>

拡大表示したい領域を囲む矩形の隅点をクリックで指定し、ドラッグしたまま対角にある隅点までマウスを移動し、ドラッグを解除します。矩形で指定した領域が拡大表示されます。

#### <図面全体表示>

拡大表示している図面ウィンドウ内で右クリックします。図面全体を表示する図面表示に戻ります。

#### <表示領域の移動>

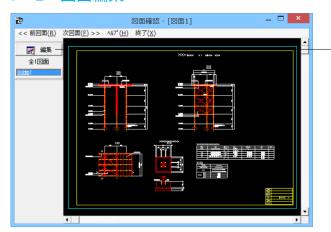
図面ウィンドウの右側および下側のスクロールバーまたはキーボードの「↑・↓」「→・←」キーの押下で上下左右に表示領域が移動します。

※スクロールマウスを使用していた場合、ホイールによる拡大・縮小表示および表示領域の移動が行えます。

拡大:ホイールを前方向に回転縮小:ホイールを後方向に回転

移動:ホイールを押したままでのドラッグ

# 7-2 図面編集

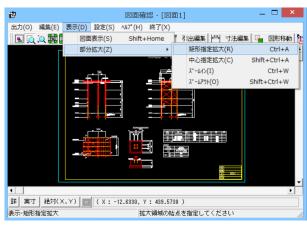


「選択ウィンドウ」で編集したい図面を選択して「図面ウィンドウ (表示モード用)」に表示させた後、「選択ウィンドウ」の「編集」ボタンをクリックします。

# 図面の表示 (編集モード)

「表示」メニューまたはツールバーのボタン等にて拡大表示や図面全体表示が行えます。 編集作業中も「図面の拡大・縮小表示」や「図面の表示領域の変更」は可能ですので、必要に応じて操作してください。

#### <「表示」メニュー>

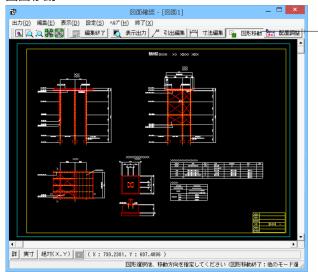


#### <マウス操作>

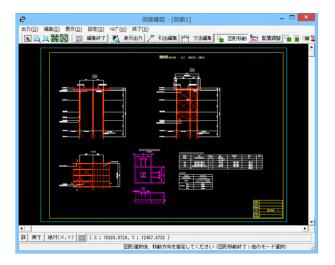
スクロールマウスを使用していた場合、ホイールによる拡大・縮小表示が行えます。

①拡大:ホイールを前方向に回転 ②縮小:ホイールを後方向に回転

#### 図面移動



メニュー「編集」 - 「モード選択」 - 「図形移動モード」または ツールバーの「図形移動」 ボタンをクリックします。 図形選択 待ち状態になります。



移動したい図形を「クリック指定」、または、「ドラッグによる BOX指定」で選択します。選択された図形は選択状態表示に 変わります。

移動したい図形をクリックするか、またはマウスで図形の回りを囲むようにドラッグして選択します。選択された図形はピンク色にかわります。

<「編集」-「任意移動」、「垂直移動」または「水平移動」メニューを選択します。マウスカーソルがに変わり、移動基準点待ち状態になります。>

<クリックで移動する図形の基準点を指定します。指定後、マウスカーソルは元の状態に戻ります。 >

<クリックで移動先を指定すると、指定された位置に図形が移動します。移動後は、マウスカーソルがに変わり、移動基準点待ち状態に戻ります。>

<右クリックで移動処理が終了し、②の図形選択待ち状態に戻ります。>

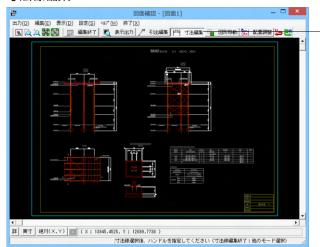
※図形選択では、同じ縮尺の図形のみ複数選択が行えます。 異なる縮尺の図形は一度に選択できませんので、別々に移動してください。

※1つ1つ図形を選択する場合は「クリック指定」で、複数の図形をまとめて選択する場合は「ドラッグによるBOX指定」で選択してください。なお、「ドラッグによるBOX指定」の場合、少しでもBOX (矩形) に掛かる全ての図形が移動対象として選択されます。

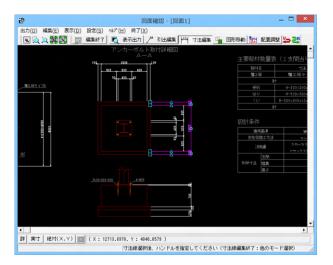
※図形選択をShiftキーやCtrlキーのキーボードとの併用で行うと、追加選択や選択解除などの選択方法の変更が行えます。 ※図形移動モード中も「図面の拡大・縮小表示」や「図面の表示領域の変更」は可能ですので、表示状態を変更しながらの図形移動が行えます。(「矩形指定拡大」、「中心指定拡大」を実行後に拡大実行を終了する場合は、マウスを右クリックしてください。)

※行った編集処理を一つ一つ取り消しながらさかのぼる「アンドゥ」は「編集」 – 「アンドゥ」メニューで、アンドゥした処理を復元する「リドゥ」は「編集」 – 「リドゥ」メニューで行えます。

#### 寸法線編集



「編集」 - 「モード選択」 - 「寸法線編集モード」または「寸法編集」 ボタンをクリックします。 寸法線以外の要素がトーンダウン表示に変わり、寸法線選択待ち状態になります。



編集したい寸法線を「クリック指定」で選択します。選択された寸法線は選択状態表示に変わります。

編集したい寸法線をクリックします。 選択された寸法線はピンク色にかわります。

編集するハンドルをクリックで選択します。 ハンドルの表示状態が変わります。

ハンドルとは、選択状態に指定された寸法線や引出線に表示される矩形マークのことです。

マウスカーソルを編集先に移動してクリックします。編集後は、 寸法線選択待ち状態に戻ります。

※寸法線編集モード中も「図面の拡大・縮小表示」や「図面の表示領域の変更」は可能ですので、表示状態を変更しながらの寸法線編集が行えます。(「矩形指定拡大」、「中心指定拡大」を実行後に拡大実行を終了する場合は、マウスを右クリックしてください。)

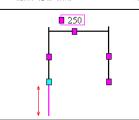
※行った編集処理を一つ一つ取り消しながらさかのぼる「アンドゥ」は「編集」 - 「アンドゥ」メニューで、アンドゥした処理を復元する「リドゥ」は「編集」 - 「リドゥ」メニューで行えます。

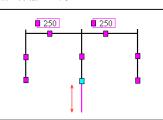
#### ハンドル操作による編集は寸法線やハンドルの種類によって変わります。具体的な操作は以下を参照してください。

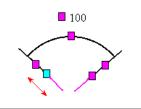
並行寸法線 基礎形状(平面図) 形状

#### ◆引出点移動

引出部の端点(引出点)のハンドルを選択し、引出点を伸縮します。

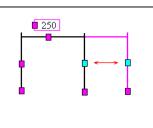


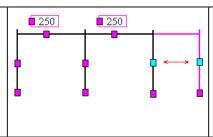


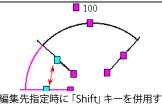


#### ◆引出部移動

引出部の中央のハンドルを選択し、引出部を表示部方向に移動します。なお、移動先の指定後に寸法値(文字列)変更のウィンドウが開き ますので、表記する寸法値の確認・修正が行えます。



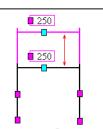




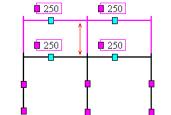
※編集先指定時に「Shift」キーを併用する と、指定先を「0度」・「90度」・「180度」・ 「270度」に保つことができます。

#### ◆表示部移動

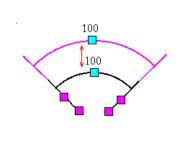
表示部の中央のハンドルを選択し、表示部を引出部方向に移動します。



ると、指定点の動きがマウスの位置により垂ると、指定点の動きがマウスの位置により垂 直または水平に固定されます。

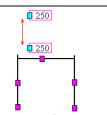


※編集先座標指定時に「Shift」キーを併用す ※編集先座標指定時に「Shift」キーを併用す 直または水平に固定されます。

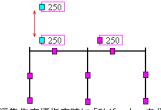


#### ◆表示文字移動

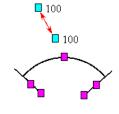
表示文字のハンドルを選択し、文字列全体を移動します。寸法線で表示部のハンドルと表示文字のハンドルが重なっている場合、「Shift」 キーを押しながらマウス左クリックすると表示文字のハンドルが優先して選択されます。



ると、指定点の動きがマウスの位置により垂ると、指定点の動きがマウスの位置により垂 直または水平に固定されます。

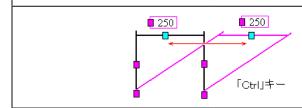


※編集先座標指定時に「Shift」キーを併用す |※編集先座標指定時に「Shift」キーを併用す 直または水平に固定されます。

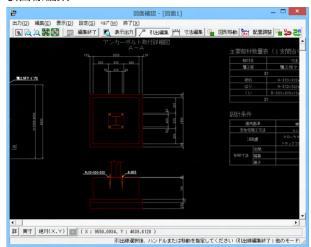


#### ◆斜め移動

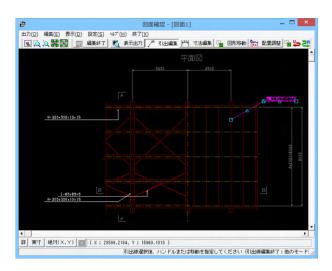
表示部の中央のハンドルを選択し、この状態で「Ctrl」キーを押しながら引出部を伸縮しま す。なお、マウスカーソルが表示部の両端より外に出た場合、その斜め方向に伸縮します。



#### 引出線編集



「編集」-「モード選択」-「引出線編集モード」または 「引出編集」ボタンをクリックします。引出線以外の要素が トーンダウン表示に変わり、寸法線選択待ち状態になりま



編集したい引出線を「クリック指定」で選択します。選択され た引出線は選択状態表示に変わります。

選択された引出線はピンク色にかわります。

編集するハンドルをクリックで選択します。ハンドルの表示状 態が変わります。

ハンドルとは、選択状態に指定された寸法線や引出線に表示 される矩形マークのことです。

マウスカーソルを編集先に移動してクリックします。移動後は、 引出線選択待ち状態に戻ります。

#### ◆メニュー選択による編集

上記と同じ手順です。

「編集」-「任意移動」メニューを選択します。マウスカーソル がに変わり、移動基準点待ち状態になります。

クリックで移動する引出線の基準点を指定します。指定後、マ ウスカーソルは元の状態に戻ります。

クリックで移動先を指定すると、指定された位置に引出線全体 が移動します。移動後は、移動基準点待ち状態に戻ります。 右クリックで移動処理が終了し、引出線選択待ち状態に戻りま す。

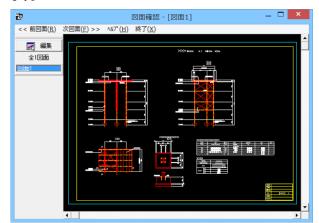
※「複数直線引出線」の場合、右クリックで表示される「ポッ プアップメニューでの引出線編集」が行えます。

※引出線編集モード中も「図面の拡大・縮小表示」や「図面の 表示領域の変更」は可能ですので、表示状態を変更しながら の引出線編集が行えます。(「矩形指定拡大」、「中心指定拡 大」を実行後に拡大実行を終了する場合は、マウスを右クリッ クしてください。)

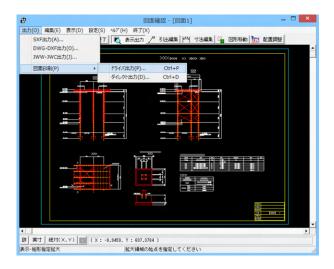
※行った編集処理を一つ一つ取り消しながらさかのぼる「アン ドゥ」は「編集」-「アンドゥ」メニューで、アンドゥした処理を 復元する「リドゥ」は「編集」-「リドゥ」メニューで行えます。

# 7-3 図面出力

図面をファイル (SXFファイル・DWGファイル・DXFファイル・JWWファイル・JWCファイル) やプリンタ・プロッタへ出力します。



図面出力は、編集モードに移行して行います。「選択ウィンドウ」の「編集」ボタンをクリックしてください。(すでに編集モードになっている場合は、この操作は不要です。)



「編集モード」に移行し、「図面ウィンドウ(編集モード用)」 に切り替わりますので、「出力」メニューを選択して図面の出力 を行ってください。なお、「表示モード」へは、「図面ウィンドウ (編集モード用)」の「編集終了」ボタンクリックで戻ります。

#### ファイル出力

以下はSXF出力の方法になりますが、DWG・DXFファイル・JWW・JWCファイルへの出力も方法は同様です。



「出力」-「SXF出力」メニューを選択すると、「SXF一括出力」 画面が表示されます。

「図面一覧」でファイル出力 (保存) する図面をクリックして選択します

※図面は複数選択が可能です。複数図面の選択は、「Shift」 キー、「Ctrl」キーを併用しながらのクリックで行います。

- ・「Shift」キー+マウス:すでに選択状態の図面から指定した図面までが選択されます。
- ・「Ctrl」キー+マウス :指定した図面のみの選択状態を変更します。

「出力フォルダ」でSXFファイルの出力先フォルダを指定します。「変更」ボタンをクリックすると「フォルダの参照」ダイアログボックスが表示されますので、出力(保存)先フォルダを指定してください。

#### ファイル名称を指定してください。

「ここで指定したファイル名で出力する」か「基準類の命名規則に従ったファイル名で出力する」かを選択してください。なお、「ここで指定したファイル名で出力する」を選択した場合はファイル名称も入力してください(「参照」ボタンをクリックすると「名前を付けて保存」ダイアログボックスが表示されますので、保存するファイルの指定が行えます)。

※「ここで指定したファイル名で出力する」場合、実際に保存するファイルの名称は「入力されたファイル名に番号を付加したもの」になります。

※「基準類の命名規則に従ったファイル名で出力する」場合、メニュー「設定」ー「図面設定」の「ファイル名付け」で指定された名称で出力します。

#### 保存するファイル形式を指定します。

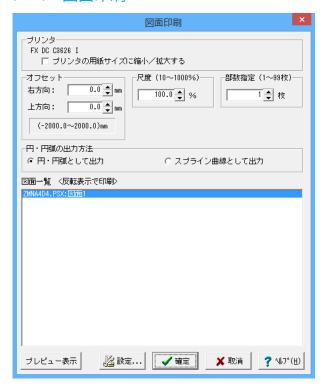
「設定」ボタンをクリックすると、「SXF出力の設定」画面が表示されますので、出力時の各種条件の設定を行います。

②各項目の設定が終わりましたら、「確定」 ボタンを押して出力を行ってください。

※DWG・DXF出力した図面の寸法線をAutoCADで編集した際に、寸法値も自動変更されるようにする方法(Q1-2-10参照)

https://www.forum8.co.jp/faq/win/tools-tempbrqa.htm#q1-2-10

## 7-4 図面印刷





## ドライバ出力

メニュー「出力」 - 「図面印刷」 - 「ドライバ出力」を選択すると、下記の画面が表示されます。

「プリンタ」には、現在の出力先を表示します。また、図面サイズが印刷する用紙と違う場合、「プリンタの用紙サイズに縮小/拡大する」をチェックすると、印刷する用紙にあわせて図面全体を縮小/拡大して印刷します。

出力先の変更は、画面下部の「設定...」ボタンをクリックして標示される「プリンタの設定」ダイアログで行えます。

「オフセット」「尺度」「部数指定」「円・円弧の出力方法」を設定します。

「図面一覧」で印刷する図面を選択します。

- ※図面は複数選択が可能です。複数図面の選択は、「Shift」 キー、「Ctrl」キーを併用しながらのクリックで行います。
- ・「Shift」キー+マウス: すでに選択状態の図面から指定した 図面までが選択されます。
- ・「Ctrl」キー+マウス :指定した図面のみの選択状態を変更 L.ます.

印刷イメージを確認したい場合は、画面下部の「印刷プレビュー」ボタンを押してください。

各項目の設定が終わりましたら、「確定」 ボタンを押して出力を 行ってください。

※生成した図面をPDFファイルに出力することができますか? (O1-2-14参昭)

https://www.forum8.co.jp/faq/win/tools-tempbrga.htm#q1-2-14

## ダイレクト出力

メニュー「出力」 ー 「図面印刷」 ー 「ダイレクト出力」 を選択すると、下記の画面が表示されます。

「出力先プロッタ」には、現在の出力先が表示されます。図面サイズが印刷する用紙と違う場合、「プリンタの用紙サイズに縮小/拡大する」をチェックすると、印刷する用紙にあわせて図面全体を縮小/拡大して印刷します。

「尺度」を設定します。

「図面一覧」で印刷する図面を選択します。

- ※図面は複数選択が可能です。複数図面の選択は、「Shift」 キー、「Ctrl」キーを併用しながらのクリックで行います。
- ・「Shift」 キー+マウス: すでに選択状態の図面から指定した図面までが選択されます。
- ・「Ctrl」キー+マウス :指定した図面のみの選択状態を変更します。

印刷イメージを確認したい場合は、画面下部の「印刷プレビュー」ボタンを押してください。

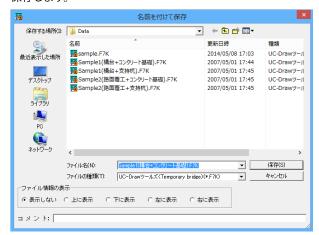
画面下部の「設定...」ボタンを押すと、下記画面が表示され 諸条件を設定できます。

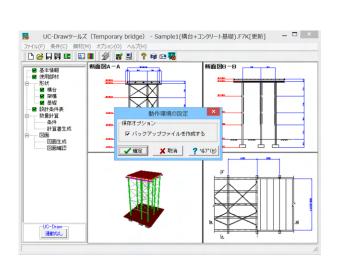


各項目の設定が終わりましたら、「確定」ボタンを押して出力 を行ってください。

## 8 ファイル保存

現在作業中の作図基本データと図面データをメニュー「ファイル」ー「名前を付けて保存」または「上書き保存」でファイルに保存します。





### 名前を付けて保存

現在作業中の入力データと図面データを指定された名称で保存します。

「名前を付けて保存」を選択すると、ファイル選択ウィンドウが開きますので、ファイルを保存する場所を指定し、「ファイル名」欄に任意のファイル名を入力して「保存」ボタンを押してください。

※保存されるデータファイルは、入力データファイル (\*\*\*. F8E) と図面データファイル (\*\*\*. PSX) です。図面データが生成されていない場合は、入力データファイルのみ保存します。

## 上書き保存

現在作業中の入力データと図面データを現在のファイル名称で上書き保存(更新)します。一度も保存されていないデータを保存する場合は、「名前を付けて保存」と同様の操作になります。

※保存されるデータファイルは、入力データファイル (\*\*\*. F7K) と図面データファイル (\*\*\*.PSX) です。図面データが生成されていない場合は、入力データファイルのみ保存します。

※メニュー「オプション」 - 「動作環境の設定」で、入力データおよび図面データを同じ名称のファイルに上書き保存する場合に、バックアップファイルを作成するかしないかを指定することができます。

作成する場合は、チェックボックスをチェックしてください。なお、チェックした場合に作成されるバックアップファイルの拡張子は、入力データファイルの場合は「\*.F7K~」、図面データファイルの場合は「\*.PSX~」となります。バックアップファイルは、拡張子の「~ (チルダ)」を削除することで本プログラムでの読み込みが可能となります。

## 第3章 Q&A

## 1 UC-Drawツールズ「共通」

## 1. 図面作図条件

- Q1-1-1 図面作図条件におけるレイヤ属性の「線色」を変更したい。
- A1-1-1 「図面作図条件-レイヤ属性」画面のレイヤに対する「線色」につきましては、各基準にて示されていますので変更することはできません。このレイヤに対する「線色」は、例えば「図面作図条件-線属性-外形線-線色」の項目で「レイヤ値」と設定されている場合に外形線を作図する際に使用(レイヤ属性で示された線色で作図)します。 従いまして、「図面作図条件-線属性-外形線-線色」に「レイヤ値以外の目的の色」を使用したい場合には、「図面作図条件-線属性-外形線-線色」に「レイヤ値以外の目的の色」を設定してください。
- Q1-1-2 引き出し線と鉄筋加工の円の大きさを変更したい。
- A1-1-2 鉄筋記号を囲む円の大きさを変更するには、メニューの「条件」-「図面作図条件」の「線属性」-「引出線」-「X文字属性」にて「文字高さ」と「文字幅」を調整してください。 現状では「条件」-「図面作図条件」-「線属性」-「引出線」-「X文字属性」の「文字高さ」と「文字幅」で指定されたサイズを円の大きさとしております。
- Q1-1-3 側面図の断面矢視 (矢印+番号) を大きくしたい。
- A1-1-3 「条件-図面作図条件-文字属性」の「矢視文字」のサイズ(高、幅)を調整してください。
- Q1-1-4 寸法線の乗算記号を変えたい。
- A1-1-4 「条件-図面作図条件-線属性」画面で乗算記号を変更してください。
- Q1-1-5 文字が縮尺を変えても大きくなっていません。
- A1-1-5 文字サイズは、縮尺によらず、図面作図条件画面の各画面の「文字属性」の値に従いますので、各画面にて目的の文字サイズを入力し、図面生成を行ってください。
  - ・引出線の文字サイズ
    - 1) メインメニューから「条件-図面作図条件-線属性-引出線」 ダイアログを開く
    - 2) 丸文字のサイズを「X文字属性」で変更する。
  - ・寸法線の文字サイズ
    - 1) メインメニューから「条件 図面作図条件 線属性-寸法線」 ダイアログを開く
    - 2)「文字属性」ボタンを押下、文字サイズを変更する。
  - ・鉄筋表の文字サイズ
    - 1) メインメニューから「条件 図面作図条件 図形属性-鉄筋表」ダイアログを開く
    - 2)「文字属性」ボタンを押下、文字サイズを変更する。
- Q1-1-6 「図面枠線のマージン」の入力場所がわからない。
- A1-1-6 下記で変更することができますので、変更後に図面作成を実行してください。 ・図面枠線のマージン 「条件-図面作図条件」-「図面属性-図面枠線」
- Q1-1-7 寸法線の寸法値を「mm」単位で作図したい。
- A1-1-7 「条件-図面作図条件-計算基準-止め・まるめ」画面で、寸法値の止め(小数点1位止め、mm止め)を選択して下さい。

### Q1-1-8 寸法線の寸法値を「mm」単位で作図した際、部材配置の合計寸法値と配置幅寸法値が一致しない場合がある。

A1-1-8 寸法線の寸法値を「mm」単位で作図した際、各寸法値を「mm」単位で表示しますので、各寸法値によっては、お問合せの現象が生じます。

<小数1位単位>

部材配置寸法(99.5 + 4\*250.0=1000.0 + 100.5)・・・表示合計: 1200.0

部材配置幅 (1200.0)

<mm単位>

部材配置寸法(100+4\*250=1000+101)・・・表示合計:1201

部材配置幅 (1200)

この現象を回避する(表示合計値を合わせる)には、部材配置位置を調整してください。

## Q1-1-9 図面の表題欄 (タイトル版) を作図しないようにできないか?

- A1-1-9 以下の設定により、表題欄 (タイトル版) の無い図面を生成することができます。
  - ・「条件-図面作図条件-図面属性」画面を開く
  - ・「タイトル版-作図位置」の枠線からの離れ寸法(右端、下端)に「0」を入力
  - ・「確定」で「図面作図条件」画面を閉じ、図面生成を実行

### Q1-1-10 以前に設定した「図面作図条件」は、どこに保存されているか知りたい。

- A1-1-10 設定された「図面作図条件」は、下記の作業領域 (ファイルの場所) の図面作図条件ファイル「UC\_SAKUZU.SZJ」 に保存されています。
  - ・「図面作図条件」画面を開く。
  - ・「他製品の作図条件(SZJ)読み込み」ボタンを押下する。
  - ・「ファイルを開く」画面の「ファイルの場所」に保存されています。

### Q1-1-11 作図するフォントを変更するには?

- A1-1-11 以下の設定により、作図するフォントを変更できます。
  - 一括で変更
  - 1.「条件-図面作図条件-レイヤ」画面を開く
  - 2.「各要素に以下のフォントを設定」をチェック状態にして、「フォント」を選択し「確定」する
  - 3.「図面生成」を実行する
  - ・個別に変更
  - 1.「条件-図面作図条件-図形属性・線属性・文字属性」画面を開く
  - 2.変更したい文字情報のフォントを変更し「確定」する
  - 3.「図面生成」を実行する

## Q1-1-12 生成する図面のレイヤ名称をライフサイクルに応じて変更することができますか?

- A1-1-12 以下の操作でライフサイクルに応じたレイヤ名称に変更することができます。
  - ・「条件-図面作図条件-レイヤ属性」画面を開く
  - ・「主任主体区分」を目的のライフサイクル (測量:S、設計:D、施工:C、維持管理:M) に変更する
  - ※レイヤ名称の先頭文字がライフサイクルとなります。(例:構造物外形線レイヤ D-STR)

## 1-2. 図面確認

- Q1-2-1 図面生成を行い、編集画面において「引出編集」を行う場合、引出を移動させると参照点 (矢印の先) も一緒にずれてしまう。数値と下線のみ移動は可能か?
- A1-2-1 引出線は、引出線の表示部(鉄筋記号・数値が作図された線)の中央の□をマウスで左クリックし、マウスを移動することで引出線の移動を行うことが出来ますが、「Ctrl]キーを押しているか否かで以下のように移動状態が変力わりますので、ご確認ください。

「Ctrl]キー押している時 :矢印など引出線の全体を移動「Ctrl]キー押していない時:□部のある表示部のみ移動

- O1-2-2 文字をゴシック体でDWG・DXF変換するとビックフォントになる。
- A1-2-2 DWG·DXF出力時のファイルバージョンを変更することで改善できます。
  - ・「図面確認-編集-出力-DWG·DXF出力-設定」 画面を開く
  - ・「ファイルバージョン」・・・「Release12」以外にする。
- Q1-2-3 図面枠内の工事名、施工箇所等の名称変更、又当社オリジナルの作成方法はありますか?
- A1-2-3 図面枠内の工事名、施工箇所等の名称変更につきましては、本プログラムでは入力・作図できませんのが、「UC-Draw」のライセンスをお持ちの場合は下記の手順でオリジナルの表題欄を作成し「UC-Drawツールズ(Pile)」で使用することが出来ます。

#### ■表題欄作成1

- 1.「UC-Draw」のメニュー「オプションー表シンボル生成機能」を選択
- 2. 「表シンボル生成機能」でオリジナルの表題欄を作成(新規または既存ファイルを編集) <既存シンボルの編集例>
  - ・表シンボル生成機能で既存シンボル(UC-Drawインストールフォルダ内のUCCAD.HDF)を読込む
  - ・書式をオリジナルに編集 (サイズ調整、会社名入力など) する
- 3. 作成した表題欄を保存

### ■表題欄作成2

- 1.「UC-Draw」の図面上でオリジナルの表題欄を作成 (新規または既存ファイルを編集)
  - <既存部品の編集例>
  - ・既存の表題欄部品(UC-Drawインストールフォルダ内のUCCAD.SDF)を図面上に貼り付ける ※「表示-シンボル貼り付けウインドウ」で既存部品を選択、貼り付ける。
  - ・書式をオリジナルに編集 (サイズ調整、会社名加筆など) する
- 2.メニュー「編集-部品登録」を選択し作成した表題欄を保存
  - ・例えば、UC-Drawインストールフォルダ内のUCCAD.SDFに名前をつけて部品を登録する
- ■上記表題欄を「UC-Drawツールズ(Pile)」で使用
- 1.「UC-Drawツールズ(Pile)」のメニュー「条件-図面作図条件」を選択
- 2. 「作図条件」の「図面属性」を選択
- 3.「図面属性」の「タイトル版」で「ファイル名称」の「参照」を選択
- 4.上記で作成したファイル(\*.HDFまたは\*.SDF)を選択
- 5. 「図面属性」の「タイトル版」で「タイトル名称」を選択
- 6.「確定」で作図条件を終了
- 7.「図面-図面作成」で図面を再作成
- Q1-2-4 DWGへの変換時に「DWG・DXF出力の設定」-「DWG・DXF出力2」で「変換方法」を「ユーザー設定」にしてレイヤ名称を 個別に指定して変換しているのですが、設定したレイヤ名称でDWGへ変換されません。
- A1-2-4 「レイヤ名称」の「ユーザー設定」は、図面生成段階で「レイヤタイプ」が「UC-Draw」の場合の設定ですので、「レイヤタイプ」が「UC-Draw」タイプでない場合には使用していません。 以下の方法で目的のレイヤ名称を設定して下さい。

A)図面生成段階の「レイヤタイプ」をUC-Drawとする場合

- ・「条件-図面作図条件-レイヤ属性」画面を開く
- ・「レイヤタイプ」を「UC-Draw」に変更する
- ・「図面生成」を行い「DXF,DWG」出力を行う。

B)図面生成段階で、目的の「基準」を設定(基準に従ったレイヤ名称付け)する場合

- ・「条件-図面作図条件-レイヤ属性」画面を開く
- ・「レイヤタイプ」を目的の基準とする
- ・「図面生成」を行い「DXF,DWG」出力を行う。
- Q1-2-5 DWG・DXF出力した場合、文字列が分解されて出力される。
- A1-2-5 「図面確認-編集-出力」画面の「設定」画面内に「文字単位で出力する」か「文字列単位で出力するか」かの設定を準備していますので、目的に合わせた設定にして出力してください。
- Q1-2-6 生成した図面をSXF形式 (電子納品用図面形式) で出力したいが、OCF検定に合格しているか?
- A1-2-6 生成した図面を「図面確認-編集-出力-SXF出力」画面にて「出力形式」から「P21形式」を選択し出力してください。 この「図面確認」からのSXF出力機能は、一般社団法人OCFのOCF検定(自動製図)に合格し、認証を取得しています。

- Q1-2-7 図面をAutoCAD形式 (DXF、DWG) で出力した場合、引出線や加工図の鉄筋記号が〇内に収まらない場合がある点を改善する方法はありませんか?
- A1-2-7 「図面確認-編集-出力-DWG・DXF出力」画面の「設定」画面内に「丸文字内の文字補正」設定を準備していますので、目的に合わせた設定にして出力してください。
  - ・「しない」・・・「鉄筋記号」を入力された文字サイズで作図します。(鉄筋記号が〇内に収まらない場合があります。)
    - ・「する」・・・「鉄筋記号」の文字が○内に収まる文字サイズで作図します。
- Q1-2-8 生成した図面を「UC-Draw」へ連動し編集したい。
- A1-2-8 弊社の2次元汎用CAD「UC-Draw」がインストールされている場合、メイン画面左下の「UC-Draw」-「連動なし」ボタンを押し、表示されるダイアログで「UC-Drawへの連動を行う」を選択、確定することで、「UC-Draw」への連動が可能となります。

「UC-Draw」では、連動された図面をUC-Drawの豊富な作図・編集・土木専用オプション(帯表、パラメトリックシンボル生成など) コマンドを使用し、効率よく編集することができます。

- Q1-2-9 図面生成の際にエラーコード「0xc0150002」が表示され、図面が生成できない場合がある。
- A1-2-9 製品のインストールフォルダ内に「Microsoft Visual C++ 2008 再頒布可能パッケージ」(vcredist\_x86.exe)を保存していますので、「vcredist\_x86.exe」を実行後、図面生成を行ってください。
- Q1-2-10 DWG・DXF出力した図面の寸法線をAutoCADで編集した際に、寸法値も自動変更されるようにする方法はありませんか?
- A1-2-10 「図面確認-編集-出力-DWG・DXF出力」画面の「設定-寸法線の出力-詳細」ボタンをクリックすることで表示される「寸法線のDXF出力設定」ダイアログボックスで指定してください。
  - ・「寸法が変更されても文字列は固定」を選択した場合
  - 寸法線をAutoCADで編集した際に、寸法値の文字列は変更されません。(寸法値は固定状態)
  - ・「寸法の編集に合わせて寸法値を変更」を選択した場合 寸法線をAutoCADで編集した際に、寸法値の文字列も変更されます。

なお、この設定の場合は、AutoCADで図面を開いた際に寸法線の文字列が自動で変更される場合がありますので、 ご注意ください。

- Q1-2-11 設定した線属性(線色、線幅)で、図面を印刷する方法はありませんか?
- A1-2-11 以下の操作で、設定した線属性(線色、線幅)の図面を印刷することができます。
  - ・「図面確認-編集-設定-色設定」画面を開く
  - ・「ここで設定した線幅を出力時に使用する」チェックボックスのチェックを外す
  - ・「編集色→出力色」ボタンをクリックし出力色を設定する
  - ・「確定」ボタンをクリックし「色設定」画面を閉じる
  - ・「出力-図面印刷-ドライバ出力」から印刷する
- Q1-2-12 図面確認画面で背景色を設定する方法はありませんか?
- A1-2-12 以下の操作で、背景色を設定することができます。
  - ・「図面確認-編集-設定-色設定」画面を開く
  - ・「背景色-背景編集色」の「色」枠内をクリックし「色の設定」画面を開く
  - ・「基本色」から背景色を設定し「OK」ボタンをクリックする
  - ・「確定」ボタンをクリックし「図面の色設定」画面を閉じる
- Q1-2-13 図面確認画面の引出線編集時に、引出方向を簡単に変更する方法はありませんか?
- A1-2-13 「複数直線引出線」の引出方向を以下の操作で変更することができます。
  - ・「図面確認-編集」画面で「引出編集」 ボタンをクリックする。
  - ・「引出線」 要素を選択 (マウス左クリック) し、ポップアップメニューを表示 (マウス右クリック) する。
  - ・ポップアップメニュー内から引出線の引出方向(左側、右側、上側、下側)を選択(マウス左クリック)する。

複数直線引出線を左側へ 複数直線引出線を右側へ 複数直線引出線を上側へ 複数直線引出線を下側へ

### Q1-2-14 生成した図面をPDFファイルに出力することができますか?

- A1-2-14 以下の操作で、PDFファイルへ出力することができます。
  - ・「図面確認-編集-出力-図面印刷-ドライバ出力」画面を開く
  - ・「プリンタの用紙サイズに縮小/拡大する」チェックボックスにチェックを入れる
  - ・「設定」 画面を開き「プリンター名」 に仮想プリンター (例えば、Microsoft Print to PDF) を選択する
  - ・「用紙サイズ」「用紙の向き」を設定し「OK」ボタンクリックして設定画面を閉じる
  - ・「確定」ボタンクリックで出力を実行する

### 1-3.他

### Q1-3-1 製品が起動しない。

A1-3-1 以下の操作により改善したケースがございますので、以下の操作をお試しください。

「UC-Draw Tools Box culvert」の場合

■「DrawBox」 フォルダ名をリネーム

製品を終了した状態で下記のフォルダ名「DrawBox」を変更し(例: DrawBox\_Old)、正常に起動するかご確認ください。
※ "UUUUU" の部分は使用中のユーザー名に置き換えてください。

C:\Users\UUUUU\AppData\Local\FORUM 8\DrawBox

C:\Users\UUUUU\AppData\Local\FORUM 8\DrawBox\_Old

#### Q1-3-2 製品起動時にエラーメッセージが出て起動しない。

- A1-3-2 以下の操作で改善される場合がございますので、お試し頂けないでしょうか。
  - 1. 製品を閉じる。
  - 2. 製品のインストールフォルダ内の「vcredist\_x86.exe」を実行する。
    - ※「vcredist\_x86.exe」とは「Microsoft Visual C++ 2008 再頒布可能パッケージ」です。
    - ※「vcredist\_x86.exe」を実行してパッケージのインストールを行ってください。
  - 3. 製品が起動するかご確認ください。

## Q1-3-3 「図面生成」から「レイアウト確認・修正」ダイアログが表示されない。

A1-3-3 「レイアウト確認・修正」ダイアログは前回閉じた際の表示位置を保存しています。 マルチモニタからシングルモニタに変更されたとのことで、現在のモニタの範囲外にダイアログが表示されている可能性が あります。

下記の方法で保存されている表示位置を修正してください。

「UC-Draw Tools Pile」の場合

- 1.「UC-Drawツールズ(Pile)」を終了
- 2.「エクスプローラ」を起動し以下のフォルダに移動

 $C: \label{local} C: \$ 

- ・「UUUU」はユーザー名
- ・「12300」 は製品バージョン
- 3.「UCCADLayoutWindow.INI」を「メモ帳」で開く
- 4.「LYO\_Window」の下にある「Top」「Left」の値を

現在のモニタの解像度の範囲内表示に変更。

修正例

Top = 100

Left = 100

- 5.「メモ帳」で「ファイルー上書き保存」を選択し閉じる
- 6.「UC-Drawツールズ(Pile)」を起動して「図面生成」 「レイアウト確認・修正」で「レイアウト確認・修正」ダイアログが表示されるかを確認。

## Q1-3-4 2枚の図面を1枚にまとめたい。

A1-3-4 図面生成時に表示される「レイアウト確認・修正」画面での図形の図面間移動を使用して図形のレイアウトを編集してください。

## Q1-3-5 新規インストールして「レイアウト確認・調整」 画面が表示されない。

A1-3-5 「条件-図面生成条件」画面で、「レイアウト確認・調整」を「する」に設定してください。

Q1-3-6	レイアウトの調整をしたい。
A1-3-6	「条件-図面生成条件」画面で、「レイアウト確認・調整」を「する」に設定してください。
Q1-3-7	以前登録したレイアウトを使用したい。
A1-3-7	レイアウト調整画面で、以前登録した「レイアウトデータ名称」を選択して下さい。
Q1-3-8	レイアウト調整画面でオフセット設定が表示されない。
A1-3-8	レイアウト調整画面上で、右クリックからポップアップメニューを表示し、「レイアウト情報」にチェックをつけてください。
Q1-3-9	レイアウト調整画面の「レイアウト情報」画面が表示されない。
A1-3-9	レイアウト調整画面上で、右クリックからポップアップメニューを表示し、「レイアウト情報」にチェックをつけてください。
Q1-3-10	「UC-Drawツールズ」で、「CAD統合版」のデータを読込んでも、「UC-Drawツールズ」では何も表示されない。
A1-3-10	以下の操作を行い「CAD統合版」データを保存したデータを「UC-Drawツールズ」で読込んでください。  ・「擁壁の設計」で「計算確認」を行う。  ・「図面作成」ボタンを押下して、図面作成へ移行する  ・「図面作成・基本条件」画面を入力済(紫 ⇒ 緑表示) 状態にする。  ・「ファイル」メニューから「擁壁の設計」 データを保存する。 ・保存したデータを「UC-Drawツールズ」で読込む。

※Q&Aはホームページ (https://www.forum8.co.jp/faq/win/tools-tempbrqa.htm) にも掲載しております

## UC-DrawツールズTemporary bridge (仮設構台) 操作ガイダンス

2023年1月 第4版

発行元 株式会社フォーラムエイト 〒108-6021 東京都港区港南2-15-1 品川インターシティA棟21F TEL 03-6894-1888

禁複製

## お問い合わせについて

本製品及び本書について、ご不明な点がございましたら、弊社、「サポート窓口」へお問い合わせ下さい。

なお、ホームページでは、Q&Aを掲載しております。こちらもご利用下さい。

ホームページ www.forum8.co.jp サポート窓口 ic@forum8.co.jp FAX 0985-55-3027

# UC-Drawツールズ Temporary bridge (仮設構台) <sup>操作ガイダンス</sup>